

## 1. 第2回国際シンポジウムの予告

新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」第2回国際シンポジウムは、2009年12月12～13日に、法政大学市ヶ谷キャンパスで開催されます。テーマは「ユーラシア地域大国の政治比較 序章」です。自由化、グローバル化が進行する中で、政治変化のダイナミズム、価値理念の再編、体制移行の実態を明らかにすると同時に、地域大国の政治比較の方法論を模索しようとするものです。まずパネル・ディスカッションでは、3人の基調講演者が中国の改革開放、旧ソ連のペレストロイカ、インドの自由化の流れを中心に、地域大国の政治において何が変わり、何が変わらないのかを分析します。次に、討論者を交えて、ユーラシア地域大国を中心に政治比較の課題や比較研究の方法論などについて、議論を展開します。また第1セッションでは、伝統社会の解体、社会関係の再構築と基層権力構造の変動に関する分析が、比較の視点を通して行われます。第2セッションでは、宗教政治の動向、文化の衝突と民主化に関する地域的な努力が取り上げられます。第3セッションでは、経済発展や市場化を背景とする中産階級の台頭とその政治的意味、階級の再編・格差による社会衝突の実態を明らかにする試みが行われます。暫定のプログラム案は次の通りです。[組織委員長・唐亮]

### Second International Symposium of Comparative Research on Major Regional Powers in Eurasia

#### “Comparing the Politics of the Eurasian Regional Powers: China, Russia, India, and Turkey”

Date: December 12-13, 2009

Place: Ichigaya Campus, Hosei University

#### December 12 (Sat)

13:30 Opening Remarks

14:00 Setting the Agenda

“How to Understand the General Trends of Regional Powers?”

**Nobuaki Shiokawa** (Tokyo University) “Revisiting Perestroika, the End of the Cold War, and the Dissolution of the Soviet Union after Twenty Years”

**Katsuji Nakagane** (Aoyama Gakuin University) “Economic Transitions in Comparison: Why

Do Socialist Countries Flee to Capitalism?"

**Hideki Edokoro** (Hosei University) "Implications of the 'Indian Miracle': Reconsidering the Development Political Economy"

16:00 Replying to the Questions

"How to Study the General Trends of Regional Powers?"

**Akio Takahara** (Tokyo University), **Liang Tang** (Waseda University), **Shinichiro Tabata** (Hokkaido University), **Kimitaka Matsuzato** (Hokkaido University), **Norio Kondo** (IDE-JETRO)

18:00 Reception

December 13 (Sun)

10:00 Session 1.

"Sub-national Units for Modernization and Democracy: Villages and NGOs in Russia, China, and India"

**Tomila Lankina** (De Montfort University, UK), "Determinants of Sub-National Democracy Variations in Russia and India: A Preliminary Framework for Analysis"

**Fumiki Tahara** (Tokyo University), "Community Governance in China and Russia: A Comparative Perspective"

**Lei Guang** (San Diego State University, USA), "The Politics of Social Conflict and Conflict Resolution: Comparing Local State and Society Relations in China and India"

13:00 Session 2.

"A Key to Greatness: Religious Politics in Regional Powers"

**Christopher Marsh** (Baylor University, USA), "Religion, Civilization, and Inter-State Conflict in the Asia-Pacific Region"

**Kimitaka Matsuzato** (Hokkaido University), "Islamic Ecclesiology in non-Arabic Countries: Russia and China"

**Fumiko Sawae** (Tohoku University), "Comparison of Turkey, Azerbaijan and Central Asia"

15:15 Session 3.

“Realignment of Social Strata and its Cleavages”

**Vamsi Vakulabharanam** (University of Hyderabad, India), “Does Class Count? Class Structure and Worsening Inequality in China and India”

**Hiroaki Hayashi** (The University of Shimane), “The Middle Class in Russia: Its Diversity in Composition and Values”

**Shigeto Sonoda** (Tokyo University), “Different Perceptions of Social Inequality in China, India, and Russia: A Comparative Analysis of Asia Barometer, 2008”

17:15 Closing Remarks

## 2. 第1回国際シンポジウム「地域大国と持続的発展の可能性」開催される

7月9～10日に新学術領域研究「ユーラシア地域大国の比較研究」の第1回国際シンポジウムが予定通り開催されました。今回のシンポジウムは、計画研究「持続的経済発展の可能性」を行っている第3班を中心に組織されました。全体のテーマは「地域大国と持続的発展の可能性」とされ、マクロ経済、エネルギー、環境、ミクロ経済（貧困と格差）、長期経済発展の5つのセッションが設けられました。このシンポジウムの概要については、HP（第3班の「研究成果・活動報告」）をご覧ください。また、発表されたペーパーの多くは、『比較地域大国論集』（Comparative Studies on Regional Powers）No. 2に掲載されます。この『論集』は、年内に出版することを目標に現在編集作業が行われています。[田畑伸一郎]

## 3. 第2回全体集会開催される

本領域研究の第2回全体集会が、7月11日に北海道大学スラブ研究センターで開かれました。研究進捗状況の報告に続き、第1セッション「ジェンダー論による地域比較の可能性」、第2セッション「帝国・地域大国の歴史認識」で、具体的なテーマに沿って比較地域大国研究の方法を議論しました。いずれの報告も大変充実したものでしたが、特にジェンダーについての議論は、多くの参加者に新鮮な刺激を与えたように思いました。全体集会の概要は、HP（総括班の「研究成果・活動報告」）に掲載されています。[宇山智彦]

## 4. ロシアのエネルギーに関するセミナー開催される

2009年7月22日に、北海道大学スラブ研究センター・笹川平和財団共催のセミナー「エネルギーの対口依存は危ういか？ 存在感を増すロシアの資源外交」が、東京で開かれま

した。このセミナーは、日本でも近年輸入が急増し、今後もその増加が見込まれるロシアのエネルギー（石油・天然ガス）について、その政治的、経済的安全性を考えてみようというものでした。講師は、第3班の研究協力者である本村真澄氏（JOGMEC）のほか、横手慎二氏（慶応大学）と栢俊彦氏（日本経済新聞社）が務めました。本領域研究の第3班においては、エネルギー問題を重要な研究課題の1つとしているため、このセミナーも同班からの支援を受け、第1班の協力も受けました。このセミナーの記録については、HP（第1班と第3班の「研究成果・活動報告」）をご覧ください。[田畑伸一郎]

## 5. 公募研究の採択結果

平成21年度公募研究の結果が発表されました。文科省の専門委員会による厳正な審査の結果、以下の5つの研究が採択されました。いずれも、平成21～22年度の2年間を研究期間とするものです。

研究課題名	研究代表者	所属機関
世紀転換期ガリツィアにおけるナショナリズムの鏡像	宮崎悠	北海道大学大学院法学研究科
台頭する中産階級とその政治的社会的インパクト：中印露比較研究	園田茂人	東京大学大学院情報学環／東洋文化研究所
東アジアの華人文化圏諸都市におけるサブカルチャー受容と若者の感性の変化	千野拓政	早稲田大学大学院文学研究科
民族紛争における地域大国の役割に関する比較研究	月村太郎	同志社大学政策学部
国家やグローバル経済に対するインド農民の自己表象のあり方	中谷純江	国立民族学博物館

詳しくは、HP（トップページの「募集」）をご覧ください。

## 6. 外国人研究員

第1班の新学術領域研究外国人研究員として、ジャワハルラー・ネルー大学（Jawaharlal Nehru University, New Delhi）のハッピーモン・ジェイコブ氏（Happymon Jacob）の採用が決まりました。また第2班の外国人研究員に華東師範大学（East China Normal University,

Shanghai) の楊成氏 (Yang Cheng) の採用が決まりました。ジェイコブ氏は平成 21 年 12 月から平成 22 年 2 月末まで、楊氏は平成 21 年 10 月から平成 22 年 7 月までスラブ研究センターに滞在しながら研究活動をされる予定です。

なお、第 2 班のプロジェクト研究員として採用されていた任哲氏は、ITP のプロジェクトに参加するため、9 月末で一旦雇用が中断されました。

## 7. 北海道大学におけるグローバル COE プログラムの採択

スラブ研究センターを中心に申請がなされていた北海道大学のグローバル COE プログラム「境界研究の拠点形成：スラブ・ユーラシアの世界」が採択され、10 月から正式にスタートしています。拠点リーダーは、本領域研究第 1 班研究代表者の岩下明裕教授です。第 1 班をはじめ、本領域研究とも多くの点で、コラボレーションが期待されます。同グローバル COE について詳しくは、次のサイトをご覧ください。[<http://borderstudies.jp/>]

## 8. 今後の予定

10 月 31 日 (土) ～11 月 1 日 (日)：共同利用・共同研究拠点公募プログラム・シンポジウム「北西ユーラシア歴史空間の再構築 ロシア外部の史料を通じてみた前近代ロシア世界」(於北海道大学) 第 4 班・第 5 班後援

12 月 12 日 (土) ～13 日 (日)：新学術領域研究第 2 回国際シンポジウム「ユーラシア地域大国の政治比較 序章」(於法政大学)

12 月 20 日 (日)：「地域大国の文化的求心力と遠心力」2009 年度第 2 回研究会  
「ユーラシア地域大国の神秘主義をめぐって」(於北海道大学) 第 6 班主催

## 9. 各班の研究会情報

### 第 4 班

6 月までの研究会の概要やレジュメは、HP (第 4 班の「研究成果・活動報告」) に掲載されています。また、第 4 班の研究に関連する小文「ロシア帝国論から比較帝国論へ」を、日本国際政治学会ニュースレターに寄稿しました。

[<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jair/nl/data/120.pdf#page=8>]

これについては、HP 総括班の「研究成果・活動報告」にも掲載されています。

9月3日(木)に北海道大学スラブ研究センターで研究会が開かれ、池田嘉郎氏が「共和制の帝国：ソ連に帝国論を適用するための試論」、山室信一氏が「国民帝国としての日本：比較帝国史への一視点」と題する報告を行いました。約50名が参加し、比較帝国史のさまざまな論点について活発な議論が行われました(概要はHP第4班「研究成果・活動報告」のページに記載されています)。

10月31日・11月1日には、第4班・第5班が後援するシンポジウム「北西ユーラシア歴史空間の再構築：ロシア外部の史料を通じてみた前近代ロシア世界」が開かれます。

[<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/jp/seminors/src/2009.html#10-31>]

今後は、アメリカ帝国論、東北アジア地域史、冷戦と脱植民地化などをテーマとする研究会やワークショップを開催する予定です。2010年1月23～24日には、第5班と合同の国際ワークショップ「イスラームと帝国」を大阪で開きます。具体的なプログラムは、順次ホームページやメーリングリストで告知していきます。[宇山智彦]

#### 第6班

「地域大国の文化的求心力と遠心力」第2回研究会

「ユーラシア地域大国の神秘主義をめぐって」

日時：2009年12月20日(日)

場所：北海道大学スラブ研究センター大会議室(403)

プログラム：

9:45 開会と研究打ち合わせ

10:00-12:00 第1セッション

司会：未定

**中村唯史**：19世紀末-20世紀初のロシア神秘主義と「東洋」の表象

**武田雅哉**：ビリッ!ときた日——電気・心霊・革命

12:00-13:30 昼食休憩

13:30-15:30 第2セッション

司会：井上貴子

杉本良男：ロシア神秘主義からインド・ナショナリズムへ

近藤光博：「神秘の東洋」という言説——インドの事例からの見取り図

16:00—18:00 映画と討論

ジョージ・スティーブンス監督の冒険活劇「ガンガ・ディン」(1939年米)

発行者：田畑伸一郎（領域代表者）

事務局：越野剛，後藤正憲，小原由美子

電 話 011 - 706 - 4809

ファクス 011 - 706 - 4952

メー ル [rp@slav.hokudai.ac.jp](mailto:rp@slav.hokudai.ac.jp)

H P <http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/rp/index.html>

住 所 〒060-0809 札幌市北区北9条西7丁目  
北海道大学スラブ研究センター